

指さしからほづきまで 片付けまでの流れが余暇

自由に過ごせる時間……。皆さんなら、どんなことをして過ごしますか？特に何もしないという方もいらっしゃるかもしれませんが、自閉症の方は「何もしないで過ごす」ことが苦手な方もいらっしゃいます。

今回は自閉症の大輝さんの余暇支援の取り組み、大輝さんの変化についてご紹介します。

破ることです…

足羽学園に入所されている利用者の方の中には、自閉症の方が多くいらっしゃいます。

自閉症の方は、自由に過ごすことを苦手とされる方が多いです。何をしようのかかわからず、パニックになる方もいらっしゃいます。今回ご紹介する大輝さんもその1人です。大輝さんは、手持ちぶさたになると、自分の着ている衣類を破ると

いう行動をされていました。

また、以前より紙ちぎりをするのが好きだったので、紙ちぎりをするために、広告を渡しても、物足りないのか、居室の壁紙を破ってしまうこともありました。

何が好き？

では、衣類を破らないでいただくためにはどのような支援をするとういのかを考えたところ、余暇の充実を図る必要があるのではな

それまでの大輝さんの行動や家庭、学校での様子から、大輝さんの好むことを探しました。

・おえかき

・積み木

紙ちぎり以外にこれらのことを好むことがわかり、余暇として提供することになりました。

大輝さん自身がしたい余暇を選び、自ら要求して来られるように、視覚情報とPECS(※)を併用した支援を始めました。

(※)PECS：絵カード交換式コミュニケーションシステム。自閉症やその他のコミュニケーション障がいを持つ方が、自動的にコミュニケーションできるようにするために作られたトレーニングプログラム。

視覚情報とPECS

視覚情報は、大輝さんが要求しやすいように見えやすいところに提示し、大輝さんにそれを見ていただき、これからは、したいことがあったら、この視覚情報を指さして「○○ください」と職員に伝えるよう声をかけをしまし

た。大輝さんは視覚情報の写真を見て「○○ください」と職員の真似をすることができました。

大輝さんの中で視覚情報が定着するまで、何度かPECSの使用もしましたが、視覚情報の方が大輝さんには適していたようで、PECSを使用することはなくなっていました。



「紙ください」指さしをして思いを伝えます

次のステップへ

視覚情報を用いて要求をして来られるようになってからの、今度は片付けをせずに遊ぶことが多くなりました。

そこで、視覚情報に新たに【片付け】の写真を取り

入れ、遊びと片付けをセットとして支援することになりました。

始めたころは、一緒に片

付けを行う職員を横目に、テレビを観ていました。しかし、何度も繰り返し行つていくうちに徐々に、集まったゴミを拾ってゴミ箱に捨てるようになりました。そ

してさらに繰り返し行うことで、ほうきとちりとりを渡すと、自ら片付けをするようになりました。

今では自ら職員の肩を叩いたり、視覚情報を指さしたりして「○○ください」と要求されるようになってきました。1枚では足りないときは、再度要求しに來られ



ほうきとちりとりを上手に使います

自ら意思表示をされたときに「伝えてくれてありがとう」と思いきり褒め、心からの気持ちを伝えていたところ、どんどん要求が増えていき、それに比例するように衣類破りも減っていきました。また、大輝さんも満面の笑みを見せてくださいました。

まだまだどのような支援がいいのだろうかと悩むことも多々ありますが、上司や先輩にアドバイスをいただきながら、積極的に支援に取り組んでいこうと思います。

平成23年度 大輝さん担当

野坂 郁江

るよう、また、片付けも定着するよう、支援を続けています。



目次ページの答えは、大輝さんのアートでした♪

その利用者の方はそのようなことが好きなのか、どのような要求の方法が適しているのか。それらを探り、提供し、定着へとつなげることが課題となっています。

今後、各担当職員が中心となって、足羽学園全体で余暇の提供を進めていきたいと考えています。

みんなの広場

足羽学園の園内の壁には、利用者の方と職員で作った、季節に合った装飾を掲示しています。



これらの装飾のおかげで、足羽学園の園内の雰囲気はグッと温かみが出ます。